

共に

塩尻市市民交流センター・生涯学習部
男女共同参画・若者サポート課

塩尻市大門七番町3番3号

TEL：(0263) 52-0280 内線3135

FAX：(0263) 54-2705

Eメールアドレス：kyoudou@city.shiojiri.lg.jp



特集

共に活躍する社会のために

～ 輝く **SHIOJIRI** の女性たち ～

多様性が求められる社会の中で、第四次塩尻市男女共同参画基本計画が策定されました。しかし、障がい者への支援や理解がまだ十分でない部分があります。障がいの有無に関わらず、活躍されている女性の方に、「共に活躍する社会のために」何が必要か、インタビューをさせていただきました。

共に活躍する社会のために



作成したコミュニケーションボードを持つ森下さん

聴覚障がい者（ろう者）は、手話を言語として意思疎通を図ります。音声言語が中心である社会では、様々な場面で、コミュニケーションがスムーズにとれません。また、外見からは障がいわかりづらいために周囲に気付いてもらえず、困ったことも多くあります。そのため、手話を通じて、聴覚障がい者への理解や支援を広める活動をしています。

手話講師（ろう者）・塩尻市手話講座運営委員長
塩尻市聴覚障害者協会役員

森下 尚子さん

Q：どのような活動を現在されていますか。

A：手話講座の企画・運営や、公民館や学校などから依頼を受け講師を務めています。今年度は塩尻市で開催された長野県防災訓練に協会で参加し、災害時に指差して意思疎通が図れるコミュニケーションボードを作成しました。

Q：やりがいは何ですか。また、苦勞されていることはありますか。

A：手話を通じて、色々な人と出会うことができ、女性や障がい者などに関係なく、様々なことに挑戦でき、楽しみながら多くのことをお互いに学び合えることがやりがいです。苦勞していることは、聞こえないという障がいは、単に音が聞こえないということではなく、情報障がいやコミュニケーション障がいであるため支援が必要だという理解が、社会全体に広がっていない現状があることです。

Q：女性として団体の代表を務める上で、苦勞されていることはありますか。

A：仕事で帰りが遅くなると家事がたまっていて大変だなあと思うこともありました。最近は男性も家事をするようになってきており、男女平等になってきていると感じています。

Q：多様性が求められる今、社会に求めることや伝えたいことはありますか。

A：公共施設や講演会などでは、手話通訳者や要約筆記者を配置し、聴覚障がい者が安心して出向くことが当たり前の社会になればと思います。また、災害時や避難所では、聴覚障がい者に音での情報は届かないので、適切な行動をとることが困難となります。特に、避難所では、音での情報（例：飲食物の配布等）を得ることが難しいので、文字で情報を伝える電光掲示板やホワイトボードなどを設置してほしいです。また、市議会議員など女性議員が増えると、様々な立場の方の意見を反映させる機会が増え、男女共同参画社会の実現につながると思います。

インタビュー

B 型事業所
「みどりが丘」所長
高島まつみさん

B 型事業所
「すみれの丘」の支援員
荘司小夜子さん

就労継続支援事業所をご存知でしょうか。就労継続支援事業所は、障がいのある方と雇用契約を結び就労支援をするA型と、契約が困難な方を支援するB型に分かれ、就労の機会や訓練の場を提供するなどの支援をしています。

Q：どんなお仕事をされていますか。

A：（高島）施設全般に関わっています。みどりが丘は、昨年6月に開所し、知的、精神、身体のある3障がいの方を受け入れています。職員は7名で、利用者は1日に10名前後です。

（荘司）利用者の就労支援全般をしています。職員は9名で、利用者は多い時で1日に26名程度です。人的にもう少し余裕があると、利用者にゆっくり関われるのですが…。

Q：やりがいは何ですか。また、苦勞されていることはありますか。

A：（高島）利用者一人ひとり抱えている問題は違います。しかし、利用者にあった支援をすることで能力が引き出され、作業に対して前向きに取り組んでいる姿を見たときは、利用者の働く力を感じるとともにやりがいを感じます。支援において苦勞することは、利用者が何を考えてどうしたいのか気持ちを聞きたいときに、コミュニケーションの難しさを感じることです。関わる時間を持ち、日頃から信頼関係を築けるよう努力しています。



作業所の様子

（荘司）利用者が、悩みを解決できた時などは支援してよかったと思います。苦勞していることは、利用者の施設内作業の工賃水準を、なかなか上げることができないことです。職員が支援することはできますが、全て職員が行ってしまうと訓練の意味がありません。工賃か技量かどちらに重きを置くかで葛藤があります。請け負う仕事は簡単であり精度が問われない軽作業が有り難いです。

Q：女性として働く上での苦勞や、やりがいを感じることはありますか。

A：（高島）職員の中には育児中の人もあり、所長として人員確保は大変なところもあります。しかし、みんなお互いさまと思い支え合い、協力して仕事を回しています。

（荘司）今の部署では、育休をしっかりと取ることができ、育休明けも働ける居場所がありました。社会全体としても、妊娠・出産などについて、色々な就業場所でも理解をしてくれる人が増えると、とても仕事がやり易くなると思います。

Q：共に活躍できる社会になるためにはどうしたらよいと思いますか。

A：（高島）清掃作業は手順やマニュアルを工夫して、徐々にできるようになりました。支援の仕方を考え、自立のために力を伸ばすことが大事だということを痛感しています。利用者は皆若いので、まずはなんでもやってみることを基本にしています。

（荘司）一般市民に施設や利用者のことを知ってほしいです。来ていただくと、今までとは違う発見があると思います。利用者の刺激にもなるし、職員の間違いを防ぐことにもなります。

平成30年度 塩尻市
豊かな心を育む市民の集いを開催します。

● 塩尻市では、「人権尊重都市宣言」及び「男女共同参画都市宣言」を行い、人権意識の向上及び男女共同参画社会の実現を目指し、意識改革に努めています。

しかし、社会、家庭の中に存在する偏見や差別等、人権に関する問題や課題は増える一方の状況にあります。

そこで、一人ひとりが、人権を尊重する社会及び男女共同参画社会の意義や重要性について正しく理解し、暮らしの中で、人を大切にする心を育てるため、豊かな心を育む市民の集いを開催します。

● 期 日 平成30年12月8日（土）

13時30分～15時30分

● 場 所 レザンホール（中ホール）

住所：塩尻市大門七番町 4-8

● 主 催 塩尻市、塩尻市教育委員会

● 内 容

（1）中学生人権作文コンテスト

入選作品表彰、発表

（2）人権啓発講演会

講師：青山 俊董 氏（無量寺東堂）

○託児 1歳以上から未就学までのお子様を対象。

無料で託児できます。（要予約）

○入場 無料（予約不要）

※手話通訳がつきます。

おすすめブック

荒くれ漁師をたばねる力

ド素人だった24歳の専業主婦が業界に革命を起こした話

坪内知佳著 朝日新聞出版

日本の海を元気にしたい！という思いで、シングルマザーの若き起業家の著者は、小さな島の合同会社「萩大島船団丸」の代表になった。人との出会いに触れ、荒くれ漁師たちと激しくぶつかり合いながらも、やがて強い絆で結ばれ、衰退する漁業界の救世主となり革命を起こす。生きている限り、人生において失敗はない。自分自身で新しい人生を切り開いていけるのだと感じさせられる一冊。

置かれた場所で咲きなさい

渡辺和子著 幻冬舎 出版

「咲く」ということは仕方がないと諦めることではありません。どのような境遇でも、「咲く」努力をしてほしい。置かれたところ、その場所こそが今のあなたの居場所だから。

2016年12月に死去したシスターのベストセラーとなったエッセイ集。今年度の「豊かな心を育む市民の集い」の講師である青山俊董氏とは、宗教は違えど「目指す頂は同じ」と親交が深かった。

2冊とも塩尻市立図書館で借りられます。

紹介

表紙

金澤 泰子氏（東京芸術大学評議員、日本福祉大学客員教授）

泰子さんが42歳のときに長女・翔子さんが誕生。生まれてすぐにダウン症と診断されました。母である泰子さんは絶望し、何度も心中を考えられたそうです。

翔子さんが5歳のときに書家の泰子さんに師事し、書道を始めます。10歳で「般若心経」を書き、2011年にはNHK大河ドラマ「平清盛」のタイトルを書くなどし、素晴らしい書家として活躍されています。母娘が歩んできたこれまでの道のりは決して平坦なものではありません。ご自身の半生から学んだことを日本各地で講演しておられます。昨年度は塩尻市にもお招きし、多くの方に生きることの素晴らしさを伝えていただきました。

編集後記

最近、「多様性を活かす」という言葉が多く使われるようになりました。様々な傾向、資質の人たちが「共に活躍できる」ようになると、しなやかで個性を尊重した社会になると言われています。人は、他の人の気持ちや考えを理解し、共感できる想像力があります。そのため、それぞれが、気付いたことから少しずつ取り組むことが大切だと感じました。（小松洋子）

「少し前まで介護ヘルパーをしていたし、2つ3つぐらいだったら、手話も知っている」という想いが、今年の編集会議の時を経るにつれて、「知る（知っている）、を深める事」も大事なんだと、気づかされたように思います。まずは、手話の勉強から始めようと思います。（山崎恵子）

就労支援事業所では「知って欲しい」という言葉がありました。よく知らないものは怖い。不安だから棲み分けしたくなる。こっちの学校、あっちの職場……。知れば「別にフツー」になる。身近に色々な人がいて、思い合いながら生活できる社会であって欲しいと願います。（山田喜子）

就労支援事業所の方にお話を聞きました。障がい者と社会との接点でご苦勞をされています。「外に開かれた施設でありたい」と話されました。知ることが、スタートです。いろいろな人や組織が事業所と関わり、もっと自然で気楽な交流が広がればと思います。（有賀則正）